

長崎県感染症発生動向調査速報

平成24年第5週 平成24年1月30日（月）～平成24年2月5日（日）

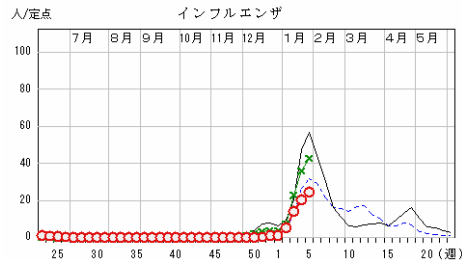
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）インフルエンザ

第05週の報告数は1703人で、前週より287人多く、定点当たりの人数は24.33であった。

年齢別では、10～14歳（326人）、6歳（146人）、4歳（134人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、長崎市保健所（41.35）、佐世保市保健所（29.91）、県南保健所（23.50）が多かった。

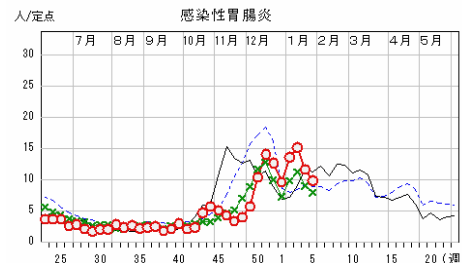


（2）感染性胃腸炎

第05週の報告数は432人で、前週より80人少なく、定点当たりの人数は9.82であった。

年齢別では、10～14歳（83人）、1歳（47人）、20歳以上（41人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、県南保健所（18.40）、西彼保健所（15.00）、長崎市保健所（11.50）が多かった。

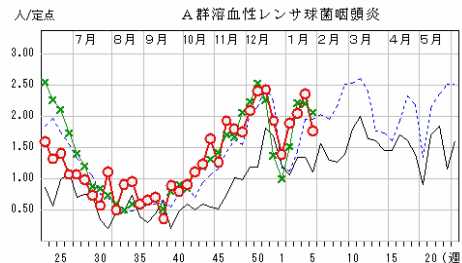


（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第05週の報告数は78人で、前週より26人少なく、定点当たりの人数は1.77であった。

年齢別では、4歳（14人）、5歳（14人）、10～14歳（14人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、県央保健所（3.17）、県南保健所（2.80）、県北保健所（2.33）が多かった。



○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
× 当年(全国) - - 前年(全国)

☆トピックス・季節情報

【インフルエンザ】

長崎県における第5週の報告数は1703人で、前週より287人増加して、定点当たりの人数は24.33と前週の20.23を上回り、県下全域から報告が上がっています。本県では第2週から報告数が急増し始め、長崎地区（41.35）では前週より報告数が増加して、警報レベル「30」を超え、佐世保市では若干の報告数の減少はみられるものの、依然として警報レベルにあります。また、西彼、県央、県北、対馬地区においては、前週の報告数を上回っており、注意報レベル「10」を超えています。県全体で見ても第2週から注意報レベルの状態にあり、今週も定点当たり報告数の上位3疾患のトップとなっています。県下では第1週から今月8日までの間に、幼稚園や保育所、小、中および高等学校等において1校（園）が臨時休業、36の学年閉鎖及び54の学級閉鎖が報告されています。例年どおりに推移すると現時点がA型流行のピーク時になりますが、今後の動向に注視し、感染予防に心掛けましょう。

当研究センターに搬入された患者の検体について検査を実施したところ、殆どがA/H3、いわゆるA香港型のインフルエンザウイルスの遺伝子が検出されており、一部の検体からB型の遺伝子も検出されていることから、県下で流行しているインフルエンザは、他県と同様、A香港型が主流で、低頻度にB型が混在して流行している状況であると推測されます。

インフルエンザには抗インフルエンザ薬がありますが、予防にはワクチン接種が有効な手段の一つです。今週は寒気の影響で、寒い日が続いています。小さいお子さんや高齢者はもとより、受験シーズンでもありますので、受験生の方は寒さ対策を行い体調管理に気をつけましょう。また、外出からの帰宅時にはうがい、手洗いの励行、マスクなどによる「咳エチケット」で積極的な感染防止に努めましょう。

県内の保健所別定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況(インフルエンザ)
長崎県(2012年第05週)

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前	
	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況
佐世保市	29.91	○	35.91	○	26.45	△	5.91	-	0.82	-	1.00	-
長崎市	41.35	○	37.65	○	22.47	△	8.24	-	2.41	-	2.29	-
壱岐	4.33	-	3.33	-	7.67	-	2.67	-	1.00	-	0.33	-
西彼	16.83	△	11.50	△	4.33	-	1.33	-	0.17	-	0.50	-
県央	18.70	△	8.30	-	3.20	-	1.80	-	0.20	-	0.10	-
県南	23.50	△	14.88	△	8.88	-	7.75	-	1.88	-	1.13	-
県北	13.25	△	5.50	-	5.00	-	3.75	-	1.25	-	0.25	-
五島	8.60	-	6.20	-	8.20	-	1.00	-	0.20	-	0.20	-
上五島	9.67	-	11.33	○	36.00	○	11.33	△	0.67	-	-	-
対馬	19.00	△	4.33	-	0.33	-	-	-	1.00	-	0.33	-
長崎県	24.33	△	20.23	△	14.21	△	5.15	-	1.15	-	0.94	-

警報・注意報レベルの基準値(定点当たり報告数)

○:警報レベル
△:注意報レベル
-:警報・注意報なし

警報レベル		注意報レベル
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10

【感染性胃腸炎】

長崎県における第5週の報告数は432人で、前週より80人減少し、定点当たりの人数が9.82ですが、全国定点当たり人数(7.92)を上回っています。県下全域で報告が上がっており、今後の動向に注視していく必要があります。感染性胃腸炎は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くが1~2歳の乳幼児が占めています。原因はロタウイルス、ノロウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、細菌性の場合もあります。ロタウイルスについては昨年7月にワクチンが製造承認されており、予防することが出来ます。小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、保護者の方が手洗いの励行、体調管理や体調の変化に心掛けてあげるなどして感染防止に努め、早目に医療機関を受診させてあげるよう心がけましょう。

【A群溶血レンサ球菌咽頭炎】

長崎県における第5週の報告数は78人で、前週より26人少なく、定点当たりの報告数は1.77でした。五島、上五島地区を除く地域で報告があり、前年に比べて長崎県の報告数は増加傾向にありますので、今後の動向に注視していく必要があります。本感染症の好発年齢は5~15歳で、鼻汁・唾液中のA群溶血性レンサ球菌の飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1~4日で、突然の発熱(高熱)、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により多くは1~2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早期に医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを行って、感染防止に努めましょう。

日本脳炎に注意！今年の夏までにワクチン接種を！

【日本脳炎】

平成22年に県内で9年ぶりの患者発生に続き、23年にも県央地区から第37週(9/12~9/18)に60代男性、第51週(12/19~12/25)に五島地区から30代の男性の発生届出がありました。日本脳炎は日本脳炎ウイルス(Japanese encephalitis virus:JEV)によって起こるウイルス感染症です。人にはこのウイルスをもっている蚊、主にコガタアカイエカに刺されることによって感染します。患者発生は西日本に多く、通常蚊の発生時期である夏から秋にかけて報告されています。しかしながら、今回の症例のように11月であっても最低気温が15~20℃に上昇し、温暖な日々が続くと、蚊の吸血、産卵行動が活発となり、日本脳炎に感染する危険性は高まります。晩秋であっても本県のように温暖な地域では油断はできません。なお、人から人に感染することはありませんし、感染者を刺した蚊に刺されても感染することはありません。潜伏期間は5~15日で、数日間の高熱、頭痛、嘔吐、めまいを発症し、重症例では、意識障害、けいれん、昏睡などがみられ、マヒ等の重篤な後遺症が残る可能性もあります。しかし、感染しても日本脳炎を発症するのは100~1000人に1人程度で、大多数は無症状で終わります。ただし、幼児および高齢者では発症率が高く、発病すると死亡率は20~40%で、幼児や高齢者では死亡や後遺症の危険性が高くなります。予防にはワクチン接種が有効です。特異的な治療法、治療薬はなく、一般療法・対症療法が中心で、肺炎などの合併症の予防を行います。また虫除けスプレーや長袖などを着用し、媒介する蚊(主にコガタアカイエカ)に刺されないような工夫が大切です。繰り返しになりますが、もっとも有効な予防方法は日本脳炎ワクチンの接種です。これまでに日本脳炎ワクチンの接種を1度も受けていない定期予防接種対象者の方(具体的には、日本脳炎ワクチンを1回も受けていない現在3~7歳半のお子さま)は、蚊の活動が活発になる、夏までに、初回は2回のワクチン接種(基礎免疫)が有効です。また、発症リスクの高い高齢者も定期接種を心掛けましょう。

日本脳炎ワクチン接種の詳細については厚生労働省のホームページを参考にしてください。

【厚生労働省ホームページ】

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou20/annai.html>



コガタアカイエカ
国立感染症研究所HPより

